

---

# Muv-Luv Gravitation Meister

自動人形

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

M u v - L u v    G r a v i t a t i o n    M e i s t e r

### 【Nコード】

N 6 4 8 2 U

### 【作者名】

自動人形

### 【あらすじ】

世界の意思にある世界を救ってとテンプレ通りの展開によって五十αの特典を貰い転生を果たす。目指す目標は白銀にこの戦争を勝ち残ってもらい悔いの無い状態にする事。その為に俺は・・・

## 01 プロローグ

「あれ、なんで意識があるんだ？それに痛みもなく・・・確か俺は自分の部屋に飾っていた模造刀が落ちてきて胸に刺さって死んだはずだが・・・」

もしかしてこれは二次創作で良くある転生か？

まさかそんなはずはないよな、あれは小説などで現実ではないんだから。

「実は現実にもあるんですよ。頻度は一世紀に一度あるかどうかの程度ですけども。しかしあまり取り乱さないのですね。」

言葉に出さずに考え事をしていたら後ろから声をかけられた。

「この世に億分の一の可能性でもあれば否定はしないのが信条だったからな。しかし参ったな、まさか俺がこんなことになるとは・・・だがしかし解せんな。生きていた時に何か特別な力が有ったり、特別不幸だった訳でも無かった筈だ。」

そう答えながら背後から声を掛けた者に振り向きながら疑問を投げかけた。

そこには1人の女性が立っていた。

「私達も今回の事は異例なんです。実はとある世界で1人の人物がループして終れなくなっていました、現に幾つかの世界が介入してその都度その世界を修正して来たのです。しかし、それでは単に新しい平行世界を作り上げるだけで…。ですが、終わりのない平行世界の中に終わりのある平行世界を作った為、介入しなかった平行世

界にも影響を及ぼしてループが解け始めて来ているのです。しかし、浸透する速度が未だ遅い為に「つまりその世界に干渉してその人物を開放してほしいと。」そのとおりです。」

しかし、たった一人の人物の為に、他の世界が助けを出すって並大抵の事じゃないな。

そうなるとそのループする人物を知っていなくてはならないが

「はい、しかもその世界の情勢や知識も一定以上持っていて、なおかつ行き当たりばったりな思考を持たない者のみと限定されるのですが。」

ループしている人物がいて世界の情勢や知識が必要って・・・まさかっ！——その行く先はマブラブオルタか！

「頭の回転もいいですね、しかし知識があってもあの世界に現状で渡ってもらっても横浜基地に辿り着けなければ意味がないですし・・・そうですね、他の世界で転生した方々は「とある魔術の超能力」とか「ガンダム」をもって話を聞きますけど貴方はどうします？五つまででしたら特典として憑けてあげられますが」

「ん？今ニュアンスが違ったような・・・まあ付けて貰えるならそうだな

1. シュウ・シラカワの頭脳・経験を
2. スパロボOGに出てくる機体・武装・装置の設計図を
3. 英霊エミヤの身体能力・投影、解析、強化魔術（UBW展開不可）・家事能力・英霊としての魔力量
4. 金ピカのゲートオブバビロン能力で中身を宝具からOG世界に存在する資材とズフィールードクリスタル、天然食材を関東圏で一日に消費される量

5. 半壊したグランゾン（ただし、動力部・歪曲フィールド発生装置はほぼ無傷で）  
になるかな」

「なんとまあスラスラと出てきますね、投影魔術の要であるUBW展開不可って、まあ世界を上書きする固有結界が展開出来なくしてもらっただけでも此方としては有り難いんですが・・・家事能力って横浜基地でブラウニーでもするんですか？それに5番目なんてわざわざ壊れた物を指定するなんて聞いたことないですよ。」

こちらの思惑で半壊状態のグランゾンを要求したから世界の意味が形をもった女性体――面倒だから女神でいいか、女神は困惑していたがエミヤのUBWに刺さっているであろうとある魔術礼装を思い出したのか慌てて注意事項を言い出した。

「そうだ、宝石剣を使って平行世界と言うかこれから行く世界から出ないで下さいね」

「元々、一度は死んだ身だしあの世界でこの能力を持っていられるなら外に出られなくても構わない。後ズフィールドクリスタルの自己修復・自己増殖・自己進化の3大理論うち増殖は要らないけどグランゾン1体作成できる量だけあればいい。最後に食材は考えてみたら関東圏じゃ多いから、都内で消費される量が一月毎に供給されるようにしてくれ」

「結構削りますね、他の方々は詰め込んでくるのに・・・そうですね、削った分後もう1つ特典を付ける事ができますがどうします？」

じゃあここはネタに走って

「じゃあ唯衣姫を嫁に!!」

「それは特典ではなく願望です。自分で頑張ってください」

女神さんが呆れた顔をして冗談を流してしまった。

しかし、他の能力か何か良いの無かったかな。そうだせっかく魔力を貰ったんだ魔力を原動力としたリリカルなのは出てきたアームドデバイス レヴァンティンがいいな。

「ではレヴァンティンで。せっかくなので魔改造を施してインテリジェンスよりにして情報端末として利用できるようにしますね」

心を読んで速攻で決めないで欲しいな。まあいいけどさ

「では、出現する場所と時間はどうします」

そうだな、日本帝国の政威大將軍、煌武院 悠陽や香月 夕呼に繋ぎを取りつつアメリカに打撃を与えG弾の優位性を落とす為には横浜ハイブにG弾を落とした直後の爆心地に半壊したグランゾンに搭乗した状態にしてみらうか。

「そうだ容姿はどうします?」

ふむ、容姿が変更できるのかそうだな…よし、決めた。

「戦女神VERITAの神殺しセリカの容姿で」

「解りました、ではその様にしますね。ここに契約は完了いたしました。がんばって下さい。」

微笑みながら契約を完了いたしましたと言った女神が右手で指した方に何時の間にか木製っぽい扉が出現していた。

その扉が引いても押しても開かないので何これと言おうとして振り返ったら、何時の間にか伸びていた紐を引っ張りながら手を振ってきた。

気付いた時には足元の1M四方の床が開き、真っ黒な空間に落とされた・・・これ言って良いよね？

「落とし穴とかふざけんなー」

## 02 茶番劇（前書き）

こんな駄文で申し訳ないですがお気に入り登録してくださった方々有難う御座います。



## 02 茶番劇

1999年〈明星作戦〉

G弾が命中し横浜ハイブが重力干渉場の影響によって壊滅した。

ここまではアメリカの思惑通りに進んだが、ここで他の世界の干渉によって歴史が変わり、アメリカが危うい立場に一時追い込まれる。G弾の影響がなくなった横浜ハイブに通常より大きな1体の戦術機が姿を現していた。

しかしG弾の影響なのか半壊していた。

（どうやら氣を失っていたみたいだ。あの女やってくれるな、まさかあんなオチを用意しているなんて。いや、そんなこと考えている場合ではないな。どうやらグランゾンの操縦方法は既に頭に入っているし、シュウ・シラカワの知識や経験もあるか。

まずは反アメリカの勢いを付けさせる為にラ・ギアスから来たことにしますか、なにせ地球内部の4次元および5次元方向に歪曲した空間に存在する世界と謳っているしG弾は五次元効果爆弾だ、うまくすり合わせればBETAと戦っているのに違う世界にも争いの火種を撒いたと周辺諸国に誤認させアメリカに痛手を追わせ国連IIアメリカのイメージを防ぎ帝国内の親米派を叩く。）

半壊し膝を付いていたグランゾンを立ち上げらせ全周波帯で通信を送る

「私は地底世界ラ・ギアス 神聖ラングラン王国王子クリストフ・グラン・マクソードの近衛騎士セリカ・シルフィルです。現在我々

の世界に重力異常が起き王都を守護する為、私の乗機グランゾンで防ぎました。しかし、それでも近隣都市の一つが重力に押し潰され崩壊しました。この事に付いて何か弁明がありますか？。そして、この重力異常を発生させたのは我が王国に宣戦布告をしたと言う事なのか、この場において是非を問う」

さあこれでアメリカの発言力を少しでも弱め日本に手を出し難くしてやる。

―煌武院 悠陽 side―

事前告知も無しにG弾を撃つなんてやってくれますねアメリカも。しかし横浜ハイブ跡に出現した青紫の戦術機はいったい何なんでしょう。

半壊していますが存在感がすごいですね、なにか言い知れない威圧感があり圧倒されます。

「いったい何者なんでしょう彼の者は・・・」

私の呟きは傍に居た紅蓮や月詠にとっても同じ気持ちだったのか頷いた。

彼の戦術機が立ち上がり全周波帯で通信をしてきました。

その内容に私達は驚愕しましたが直ぐに我に返り紅蓮に通信を繋ぐ様に言い渡した。

「私は日本帝国 征夷大將軍 煌武院 悠陽です。私達に貴国と争う事を望んではいません。」

―煌武院 悠陽 side out―

「私は日本帝国 征夷大將軍 煌武院 悠陽です。私達に貴国と争う事を望んではいけません。」

おや、直ぐに返事をしてきたのは日本帝国ですか。まあそうでしょうねアメリカが一切告知せずにG弾を放ち被害が出たのだから。これ以上の被害を防ぐ為に直ぐに動いたのでしょうか。それに私が異世界とはいえ国の軍使として宣言をした為、帝国も將軍家の者に対応せざるを得ないのだろう。では、アメリカの介入が始まらないうちに茶番劇を始めますか。

「ほう、これは異な事を・・・ではなぜ重力崩壊を起こさせる物を使って上位次元に存在しているラ・ギアスに攻撃を加えたのです？」

グランゾンのコックピット内でワザと高圧的な態度を取りながら話し始める。

「今回のことに関して私達も被害者なのです。先の横浜ハイブ攻略に置いてアメリカが事前に通告もせず、2発のG弾を我が国の領土に打ち込んだのです。そしてラ・ギアスなる地底世界がある事も今、初めて知りました。」

「話の中にわからない単語が含まれて入るのですが「横浜ハイブ」なるものと「G弾」とはいったいなんですかな。」

「「ハイブ」とはBETA、Beings of the Extraterrestrial origin which is Adversary of human race の略で、人類に敵対的な地球外起源種の巢です。そして「G弾」は五次元効果

爆弾で重力干渉兵器の一種です」

「なるほど、だからラ・ギアスにまで効果が届いたのですね。わかりました、貴女方に此方への敵意が無いと判断し日本帝国に対しての攻撃は中止としましょう。ですが、未だに回答を送ってもこないアメリカなる国にはそれ相応の代価を支払ってもらいましょう。丁度先ほど索敵が終り、識別コードが違う軍艦が洋上にいましたので、アメリカの艦船がどれか解りました。不完全な重力兵器を使って喜んでる愚者には退場してもらいましょう。」

俺は、太平洋に浮かぶアメリカの艦船に向けブラックホールクラスターを放ち周囲に影響を与えない重力兵器を見せ付ける。その行為の目的はG弾の優位性を崩す事、下手な横槍は自身の首を絞める事と理解させる事、そして、最後に日本人に対してラ・ギアス人は誠意を持って話せば理解してくれると思わせることだ。まあこれで此方の理想的な状態に持っていければ演技した甲斐があったというものだ。

「しかし困りましたね。グランゾンが半壊している状態で此方へ転移して来ましたから転移装置が完全に壊れてしまいました。不躰なお願いではありますが、この国に滞在させてもらえますかな悠陽殿下。」

「その様な事情でしたら此方に異を唱える事はありませんセリカ殿」

「感謝します」と伝え全周波回線を日本帝国が使用している通常回線の周波数に切り替え、グランゾンを動かし帝都がある方角へ歩き出した。そんな中、1機の戦術機が接近し通信を入れてきた。

「私は、日本帝国陸軍 巖谷 中佐だ。貴殿を会談場所まで案内す

る御役目を賜った。しかし、その機体では碌に移動出来ないのではないか。」

「心配してもらった事に関しては感謝を、しかし戦闘機動は修理しなくては出来ませんが、通常機動なら先ほど飛行ユニットの再起動が出来ましたので大丈夫です。では案内をお願いします。」

「では、付いて来て下さい。」と巖谷氏に言われ、彼の乗る戦術機の後を浮いた状態まま付いて行く。

暫く移動してから、唐突に巖谷氏の乗る戦術機が止まり、通信を繋げてきた。

「流石にその機体をそのまま帝都城の門前に置かれると困りますから私が所属する技術廠のハンガーに格納して貰えると助かるのですが、勿論セキュリティはバッチリですし勝手に調べるような事は致しませんよ。」

まあ、この状況でこちらを敵に回したくないのは理解できるし、事前に誓約をし信頼を得ようとする事に対して好感が持てる。得てして巖谷氏との縁が繋がったのだ、悪くない状況だ。今後とも彼とは友好関係を結びたい、ならばその信頼に答えるのが礼儀だ。

「では、お言葉に甘えさせて貰います。案内をお願いします巖谷氏。」

### 03 会談という名を借りた本音トーク（前書き）

サブタイトルとか考えるの下手だな。

### 03 会談という名を借りた本音トーク

「まず、この会談を設けてもらえた事に対して感謝を。改めて自己紹介を致します。私の名はセリカ・シルフィル、ラングラン王国の近衛騎士です。そしてあの魔装機は王子の愛機グランゾン…のコピーです。」

悠陽殿下と向かい合うように座っていた席から立ち上がり、右手を胸に当てお辞儀をし着座し、まあコピーと言いましたが皇子が造っておいた予備機ですがと付けたした。

本当は半壊したグランゾンをコピーしたのを貰っただけだが。

「私の名は煌武院 悠陽と申します。この国、日本帝国の政威大將軍を勤めています。」

悠陽殿下も俺と同じように立ち上がり両手をお腹の前で合わせゆっくりお辞儀をしそのまま着座した。

「僕は紅蓮 醒三郎 帝国軍の大將だ」

俺から見て殿下の左隣に座っていた紅蓮殿は持っていた刀を立たせ、刀の柄の先に両手を乗せ堂々と自己紹介を済ます。

「私は月詠 真耶 悠陽様の身の回りの御世話をさせて頂いております」

殿下の右後方に待機していた侍女がその場でお辞儀をした。

「私は香月 夕呼よ この場では唯の科学者というにはいかないわ

よね。まあいいわ、今回の横浜ハイブ攻略を国連軍に打診しそして米軍の横槍が入るまでその総指揮を取っていた者よ。」

殿下から少し離れた席に座っていた香月女史は、座ったまま右手を2、3回振って自己紹介を始めたが、米軍と言ったあたりから不機嫌な表情になった。

「では、まず初めに私の来訪の目的は、今回の騒動の犯人と被害を受けた我々に対しての謝罪です。実行犯は既にこの世から消えて頂いたので、作戦の立案者を暴くことです。そしてその方に謝罪し戦犯として処断される光景を国連主導で全世界に放送する事です。その提案さえ受け入れる事が出来ない、もしくは唯の会談による謝罪を申し渡した時あの国に対してそれ相応の対応を取——何者かが近づいて来ますね。この他のメンバー以外で招集した人は居ますか？」

会話の途中で気配を殺しながら此方に近づいてくる者が居ることをエミヤの身体能力を貰ったおかげか感知できた。  
まあ十中八九鎧衣課長だと思うけどね。

「いいえ、大事な事案なので必要最低限の信頼の置ける人物しか召集しておりません」

「では余計な事になるのは明らかですし、結界でこの空間を封鎖しますか。レヴァンティン封鎖結界を」

「了解です」

ネックレスが突然喋った事に対し全員が驚愕し警戒をした

「これは失礼を、この剣は私の愛剣であり簡易AIを積んだアーム



ドデバイスです。そして現在、私が張った封鎖結界のおかげでここでの会話はけっして外に漏れる事はありません。ですので腹の探り合いをして大事な時間を浪費するのは馬鹿げた事なので、本当の事をお話しましょう。」

「私は此処とは違う地球に生まれた者です。曰く並行世界、パラルワールドなどといったIFの世界が存在します。まあこの辺りは香月博士が一番理解していると思いますが・・・私がこの世界に送られてきた理由は2年後に出現するある人物に協力しBATEを駆逐する事です。」

「ですがあのグランゾンという戦術機を修理し重力砲を使ってハイブを落としていけば良いのではないですか？」

「殿下の疑問は解ります、ただ殲滅していてもダメなのです。この世界の開放は、ある人物が行わないと真の意味での開放に至らないのです。その為に国連からアメリカの色をある程度抜き、日本には私から技術・物資の提供し日本の建て直しをしてもらいます。」

まず初めに対外的に私はラ・ギアスの大使であり日本とラングラン王国が同盟を結んだ事を日本帝国国民や国連へ殿下から発表して貰う。8月7日 グランゾンに搭載されていた次元転移装置がG弾の影響で壊れた為、地上世界からラ・ギアスに帰還出来なくなり日本に永住する事を日本全土に殿下の口から発表する。

8月9日 日本の現状を知った大使が次元転移装置を一晩掛けて物資転送装置として作り直しラ・ギアスから物資を取り寄せ横浜沖に2Km×3Kmの長さをもつ移動可能なメガフロート（アストライアと命名）を11月半ばを完成予定とした建設計画をし其処をラ・ギアス領と認定する。

同盟国として現在グランゾンを格納させて貰っているハンガーに資

材・食料をバビロンもどきを使い見た目物質転送装置を起動させているように対外的に見せかけ出現させた資材・天然食材（ここ大事）を日本が格安で購入し運用してもらう。

難民避難所に倉庫を建築しその中へ救援物資を送らせる（天然食材等↑ここ大事なのでもう一度言います）難民には救援物資などをし  
まう倉庫の管理や後に出来上がるメガフロート アストライアの運用補助等の仕事を与えたりと人道的な配慮をしていると諸外国に見せる（後の戦略勉強会の発足阻止への足がかり）。

白銀武（面倒なので本名言いました。）が転移してくるまでにPTやAMの技術を使い新しい概念を使った日本独自の戦術機を製作。製作するに当たって帝国軍第一技術廠に技術提供・調整を依頼しアストライアで新造ラインを建設、出来上がった物に対するライセン  
スは販売せず成果物に関しても一部を後の207B分隊、香月博士の私設部隊伊隅ヴァルキリーズに提供するが武装・装甲に関しては帝国軍に普及させ武装・システム・装甲・新造戦術機を斯衛のみに普及させる。

後日談だがシステムや武装、装甲、新型戦術機といった物の開発には巖谷中佐が志願して出向してきたが驚いたのは、装備実験部隊として白き牙中隊（White Fangs）を預かる篁中尉を連れてやって来た事だ。

今年中に起こす事柄に関しての話し合いをし、来年からの動きは、その時の情勢に従って動こうとこの場で決め、封鎖結界を解いた

「では、セリカ殿これからも宜しくお願いします。」

「ええ、善き隣人としてともに歩みましょう。」

## **04 技術提供 その布石（前書き）**

あゝ今の仕事辞めたい・・・

食品系の仕事はもう嫌だ、休みがちちゃんと取れない

取り合えず続きです

## 04 技術提供 その布石

8月10日アメリカからの会談要請を鎧衣課長が受け、現在俺が寝泊りしている技術廠の宿舎に忍び込んできた。

国連を通して会談の様子を全世界に生放送し、G弾の使用を指示した官僚・司令官を誤魔化しようがない生放送で呼び出しその場で更迭させた。

その後、香月博士の主導で今回のG弾と前回の安保理の一方的な破棄による被害の謝罪させ賠償金を支払わせた。また、ラ・ギアスに對して謝罪するも責任を負いたくないと言わんばかりに「戦争を仕掛けたつもりはなく、今回の件は偶然によるもので、完全に我々アメリカの意図したことではない」などとほざいたが、責任逃れをするのを予想していた俺は「貴方方の誠意はそんなものですか、まったく呆れてしまいましたよ。まあそれなら此方も日本と同盟を組みましたし、我が国に対して不利益になる行為をしたのが発覚した場合には潰します。もっともCIAの情報は全て盗らせて貰いましたから何かがあれば全世界に公開させてもらいます」と齒に衣を着せぬ言い方で一方的に宣告し、会談の場から立ち去った。

その様子を生放送で見ていた日本国民はあの傲慢なアメリカが振り回されて醜態を晒した映像を見て胸の痞えが取れた感じがした。

そんな会談が終わり、メガフロートの基礎部分であるフロート部分が出来上がり、残りは上部の部分を建造する所まできた10月半ば、天然食材を尽きることなく供給したためか民間人それも難民にも配給されるようになりBETAとの戦いがある前線国家としては異例の状態になった。

そんな中技術廠での生活が残り一ヶ月程になった頃、俺はバビロンからオリハルコニウムとズフィールードクリスタルを取り出した。

ズフィールドはグランゾンの内部に組み込み、ある構想とオリハルコニウムを手に巖谷氏が居るであろう隣の棟にある作業場へ向かった。

「巖谷氏、この金属を精製して戦術機用の刀を打ってみないか？現在の長刀は反りが入ってはいるから日本刀のように多少は扱えるがそれより戦術機サイズの日本刀を使えば自身の剣術の腕を遺憾なく発揮できるのではないかな。」

「それにあれは鑄造だろう、鍛造にすれば旨く使えば長持ちするだろう。」

「しかし、鍛造だと製造するのに時間がかかってしまうだろう。その点はどうするんだ？」

「その考えになるのは当たり前か、しかし以前話しただろう俺の魔術の特性を、それを利用して月に数十振りの刀を生み出せば斯衛軍全体に行き渡るだろう。扱いが下手で折角打った刀を折られるよりか投影を使って生み出せば折られても投影しなおせばいいだけだからな。」

「その方法があったか・・・だがいいのか？お前にかなり負担が掛かるぞ。」

「別に構わないさ、それに今は設備が無いから鍛造したくても出来ないけど、グランゾンの重力操作で鍛造の真似事は出来るのでな、試験的に2，3振り作ってみただけだよ」

希少金属であるオリハルコニウムの5kgインゴットをわざと作業台に置きっぱなしにし、現在借り受けている隣のグランゾンのハン

ガーがある倉庫に戻り、新たなオリハルコニウムのインゴットを大量に出してからグランゾンに乗り込み重力操作を四苦八苦しながらも行い、その作業中にわざと置いて来たオリハルコニウムを巖谷氏はどうするかな、という疑問の答えも4日後に出るのではないかと期待しながら試作刀を3振り用意した。

（巖谷Side）

セリカが置いて行ったオリハルコニウムを1日掛けて調べた所、硬度もあり耐熱も優れているという結果が出た。

この金属を使えば不知火の間接部分の負担が掛かり直ぐに磨耗してしまう場所に利用できるし、コックピット周りにも使えばフレームが頑強になる。

それにセリカ殿も技術提供を行ってくれる、これでXFJ計画に参加せずとも我が国だけで不知火の新たな強化プランを組み上げることも出来る。

オリハルコニウムを使用した新たな強化プランについての構想を思い描いていた時、親友の忘れ形見であり、現在自分の娘のように思っている唯衣が作業部屋に入ってきた。

「巖谷のおじ様、とても嬉しそうにしていますね。何か良いこともあったのですか？」

「やあ唯衣ちゃん、良い事があったかって？そりゃもちろんあったさ。なにせ不知火に強化の幅が増えたんだから。」

「まさかXFJ計画に参加するのですか、現在の世情を鑑みれば止しておいた方がいいかと思うのですが。」

「いやXFJ計画じゃないよ、セリカ殿から資材・技術提供をしてもらえることになってね、今は未発表だがメガフロートが完成したらそっちに専門の設備もった施設を建造してそこで不知火の強化プランを仕上げるんだよ。」

「頑張ってください、おじ様。」

「何を言っているんだい唯衣ちゃん、君もテストパイロットとして出向することが決まっているんだよ。」

「えっ、聞いてないですよおじ様。」

「はっはっはっ、吃驚した唯衣ちゃんを見たいがために隠していたからね。」

## 04 技術提供 その布石（後書き）

感想ありがとうございます。

これからがんばっていききたいと思います。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6482u/>

---

Muv-Luv Gravitation Meister

2011年10月8日02時51分発行